

編集後記

当社は1997(平成9)年に創立100周年を記念して百年史を発行している。百年史の編纂から20年が経過した2016年に当社は創立120周年を迎え、その記念事業の一つとして百二十五年史の編纂に取り掛かることが2016年2月の経営会議において決定された。百二十五年史の編纂に当たっては以下の5つを基本方針とすることも示された。

〔資料継承〕社内外に散逸している資料、記憶・記録などを整理・保存し、次世代に伝える。

〔温故知新〕過去の足跡をたどることにより得られる教訓を、今後の企業経営・業務に活かす。

〔社員教育〕歴史・企業風土への認識を深め、従業員の帰属意識を向上させることで職場の一体感を醸成する。

〔会社PR〕会社の発展過程、活動内容を紹介することで、企業イメージをより鮮明にし、会社をPRする。

〔社会貢献〕産業史、経営史等の研究資料として図書館等に寄贈して、社会・業界等の発展に貢献する。

2017年4月には、成松郁廣常務執行役員を委員長、各カンパニー、本社各部門から選定された編纂支援担当者を委員、本社総務部を事務局とする「百二十五年史編纂協力委員会」が設置された。2019年4月には「百二十五年史編纂協力委員会」を「百二十五年史編纂委員会」と改称し本格的な編纂作業に着手した。また2020(令和2)年4月には成松委員長の後を引き継ぎ私が編纂委員長となった。

社史の編纂に当たっては、執筆原稿の元資料となる資料執筆カードの作成や掲載写真の収集・選定に多くの社内関係者の方々のご協力をいただいた。各カンパニーの編纂委員には若い社員が選出されることも多く、彼・彼女らにとって自身が入社する前のできごとを知っている人を探し出し資料提供を依頼するなど、並々ならぬ苦労があったと推察する。しかし、そのような作業の中で自部門の先輩たちの過去の挑戦や、困難の多い道の中で生まれた創造的な製品やプロジェクトについて理解を深められたことは、まさに百二十五年史編纂基本方針にある「温故知新」や「社員教育」に役立ったのではないかと考える。次世代を担う若い社員や将来の社員たちは、ぜひ本書を一読し会社への愛着・誇りを持ってもらえたら幸いである。また、今後の一層の当社グループの発展と「グループビジョン2030」の目指す新しい社会実現への方向性を見出し、「モノづくり」から「コト売り」に対応したソリューションを提供するビジネスモデルを創造していただきたい。

こうして2022年6月に百二十五年史を発行できる運びとなった。これも社史編纂に当たり多大なご協力をいただいた編纂委員や社内・関連会社の皆様、編集作業全般を取り仕切っていただいた大日本印刷株式会社、株式会社DNPコミュニケーションデザイン、株式会社エトレのスタッフの皆様、ライターの皆様のご指導、ご支援の賜物であり、改めて深く感謝を申し上げます。ありがとうございました。

2022年6月

百二十五年史編纂委員会 委員長
執行役員 総務本部長 細川 勝伸